

原宿会

発行所

〒204-8555

東京都清瀬市竹丘3-1-30

日本社会事業大学
同 窓 会

電 話 042-496-3053

振替口座 00100-9-42448

ホームページ・アドレス

<http://www.harajukukai.jp/>

卒業後もずっと社大の一員として
日本社会事業大学では、卒業生の方々と
の充実したネットワークを築いています。本学同
窓会は、戦前の社会事業研究生、日本社会
事業学校研究科・専修科・専門学校、短期
大学、学部卒生、そして大学院の修了
生の全員で組織されており、同窓会や大学の
歩み、会員の活動などの情報を発信します。

<http://www.harajukukai.jp>

いざ、夢の舞台へ

● ● 橋本 健太

ロンドンパラリンピックに学部四一期「秋元妙美さん」が、ボッチャ競技の代表候補に選出されたことを受け、秋元さんが、パラリンピックに向け、全精力を挙げて準備ができるように支援するとともに、夢の舞台でのメダル獲得に向けて応援メッセージをお送りしたいと思います。

●『ボッチャ』ってどんな競技？

ボッチャは、ヨーロッパで生まれた重度脳性麻痺者もしくは同程度の四肢重度機能障害者のために考案されたスポーツです。ジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ六球ず

している風景を目にしたこととです。

秋元さんは、鋭い眼差しで競技をしていました。一方で競技を離れると、とても優しい表情の先輩でした。

●秋元さんの現在

秋元さんは、平成二〇年九月にNPO法人を立ち上げ、現在、「CIL調布」の代表をしています。

どんな障害がある人も地域の一員として、充実した生活が送れるように、当事者の立場から考え、ごく普通の生活ができる社会の実現をめざし、活動しています。

さらに、休日は、ボッチャの競技のアスリートとして、練習相手や場所があれば、横浜や千葉等に出向き、競技力の向上に努めるとともに、ボッチャ競技の普及を図るため、各種講座の講師をしています。

●夢の舞台へ

そんな努力が実を結び、昨年（二〇一二年）八月に開催されたボッチャワールドカップ（北アイルランド）において、日本選手団として、初めて団体戦で銀メダルを獲得することができました。

そして今回、この結果により、世界ランキングも大幅にジャンプアップ（現在世界ランキング五位）し、パラリンピックの出場枠を確保しました。

現在、秋元さんは、代表候補選手として、夢の舞台で良い成績を残すことを目標に練習をしています。

パラリンピックの出場は、秋元さんが、ボッチャを始めた時からの夢でした。

これまで、幾多の困難にぶつかっても、決して諦めなかった秋元さんの努力の結晶として、今回のパリ

ンピックがあると考えています。

私たち、後輩としては、弱音を吐かず、常に努力を重ねていた秋元さんに敬意を払うとともに、夢の舞台で活躍できるよう、応援したいと思っています。



ボッチャ競技をする秋元さん。一緒に写っているのは、競技アシスタントをする秋元さんの弟さん

橋本健太さん(学部 44期生)

●現在、練馬区健康福祉事業本部福祉部経営課勤務。福祉のまちづくりという業務を担当。学生時代のサークルは、バレーボールサークル。ゼミは、中島健一先生のゼミに所属。学生時から、このボッチャ競技に関わらせていただいています。

●後援会としては、支援方法として、ボッチャの普及をしたいのとともに、やはり一番の問題は、金銭的な負担です。秋元さんの夢である「パラリンピックの舞台」で、メダルの獲得をするために、その準備費などに、少しでも協力いただけると幸いです。

●やむを得ない

ボッチャ競技で、よい結果を残すためには、事前の体のケアや直前の合宿、遠征等の経費が必要になります。パラリンピックに向けて、競技団体からの補助は、ごくわずかなため大部分の経費は、自己負担になってしまいます。

秋元さんが、ベストを尽くせる環境を整備するために、社大卒業生有志で後援会を立ち上げました。みなさまのご支援をお願いいたします。

同窓生通信 1



佐々木 富貴子さん(旧姓菊池)
(学部25期生)

平成元年に結婚し早二十三年になります。福祉職を離れ民宿経営ですが、泊まり商売は福祉職と似た所があり日々、奮闘中です。

私の大学生活は木造作りの古い第一松窓寮から始まりました。入寮した日、寮を見て母は「ここで暮らすの。」と驚きでしたが、四年間共に暮らした友とは今でも交友があり私の財産です。一年生は六畳に三人部屋、食事当番があり、おばさんに怒られながらの食事作り、女同士集まりよく食べるので、女子寮は別名第一養豚場でした。原宿にあるとは思えない学校と寮と学生会館での大学生活。よ

く飲み、よく話し、コミュニケーション能力はここで養われたと思います。

卒業後は知的障害者授産施設に勤務。三、四年を佐藤ゼミで障害者福祉について学び、卒論は飯田先生に、「人が生きること」「相手の立場になる。」を教わったと思います。

現在、民宿経営の上で職場や大学の経験が役に立っていると感じています。昨年、東日本大震災があり一年が経ちます。私が

住んでいる遠野市は津波にあつた沿岸の五つの市と隣接しています。そのため遠野市は復興支援の拠点となり社大も含め様々な団体が活動しています。震災後、直ちに四国の国

土交通庁の方達が宿泊しました。沿岸に行きあまりの悲惨さに立ち尽くしている、娘と孫を失ったおじいさんがその時の話を泣きもせず語ったそうです。彼は黙って聞くしかなかったそうです。ショックを受けた彼の話を私も黙って聞くだけでした。支援に来た方々を暖かく向かえることが私に出来る支援だと思いい仕事をしています。

3・11後、遠野を訪れた社大の同窓生や神田さん、大橋先生が声をかけて下さいました。本当に社大のつながりの深さと暖かさを実感です。この度は、皆さまに多大な支援を頂き岩手県民として感謝申し上げます。

【プロフィール】

- ・岩手県遠野市出身
 - ・佐藤ゼミ
 - ・うたごえサークル
 - ・卒業後、北区立田端社会福祉館勤務
 - ・郷里の遠野にて結婚し、民宿を営む。
- 追伸
近ごろは建設業の方が多く宿泊しています。建物再建のため、毎日水点下の中で働いています。

同窓生通信 2



吉田 政之さん
(学部20期生)

本欄には再登場です。今回は福島県支部の事務局として県内の状況を伝えます。

昨年十一月に支部総会を開催しました。参加者十二名で、互いの無事を確認するとともに、近況報告や今の思いの丈を出し合いました。被災すること

で、人の絆の強さを感じる一方、障害者や病人への対応の遅れや、経済的に避難できない人がいるなど、福祉人として同じ想いを認識することが出来ました。

今年度の福島は東日本大震災・原発事故、九月豪雨、今冬の大雪と災害続きます。

会員の多くが断水や物不足、風評被害など少なからず影響を受けましたが、人的な被害はありません。原発事故により、小

野志郎(本姓)と私は県内にて避難生活中です。

私事になりますが、原発事故の被災者としての実感です。直後の半月ほどは、国に見捨てられた・命を粗末にされたと言う、悔しさと怒りで二杯でした。その後は帰る所がないというジプシーの様な不安感を募らせています。地元

の多くが望む事は、事故前の当たり前の生活の回復だけです。お金がらみの話で自分たちがマスクミのちようど良い材料になつてきているのではと危惧しています。

今回の避難生活をかえりみ、人の温かさを強く感じました。とりわけ同窓生の方々には大変多くの支援を頂きここまで来ることができました。感謝申し上げます。

【プロフィール】

- 1956年/福島県相馬郡(現南相馬市)で生まれる。
- 1976年/社大入学。2年間幸泉セツル。写真部(あったっけ?)。横山和彦先生主催 原宿ロイヤルテニスクラブへ蛭田元起さん(学部15期)により強制加入。合宿活動が今日に至る。会員募集中。事務局0246-63-8527 蛭田
- 1981年/地元の知的障害児施設「東洋学園」勤務。小野志郎園長(本4)の勤めて同窓会の集まりに出るようになる。
- 1999年/「有限会社あんしん介護サービス」設立。(福島県浪江町)福島県指定居宅介護支援事業所となり現在に至る。



同窓生通信 3



西垣 耕造さん(学部29期生)

【プロフィール】

- ・東京演劇集団風・俳優、演出。
- ・社大卒業後、9年間の重度肢体不自由者の施設職員を経て風に入団。
- ・俳優として舞台上立つと共に、ロサンゼルスで行われている、心を閉ざしている人達の為の「イメージネーションワークショップ」を学び帰国。
- ・全国の学校や施設において、「コミュニケーションワークショップ」を展開。

福祉の心を学ぶ観劇会

二〇二二年、私たち風が『ヘレン・ケラー』ひびき合うものたち』を東北巡演するにあたって、多くの福祉施設の職員の思いを実現させたいと、岩手県社協が、この公演を企画された。しかし、三月十一日の大地震。県社協の職員の方々は多忙を極め、公演の準備どころではなくなったのが現実であった。ところが震災から2ヵ月ほど経った頃、いくつかの施設から「ヘレン・ケラー」は見ることが出来るんでしょか?という連絡が入ったとのこと。やはりこの公演は実現させたいとの結論に達した。一般公演ではあるが、多くの人に

チケットを配ってではなく、自分では劇場に足を運べない施設の方々を招待する公演「福祉の心を学ぶ観劇会」と定義された。公演当日、約四百人が観劇してくださった。盛岡市近郊の方々だろうと思いついて入っていた私たちが、大船渡や陸前高田、宮古からの団体があることを知り、こみ上げてくる思いがあった。

公演は舞台と客席が一体となった素晴らしいものであった。演劇はこうだ!という概念は一切ない客席である。舞台に対して、自らの想いや自らが置かれている環境に照らし合わせて受け止めている

客席である。



演劇が今、為すべきことは何か、我々は問い続けなければならぬ。また演劇を通して何かを感じてみたいと思ってくださる様々な方々と手をつなぎ、行動していかなければならないと今回の公演を通じて改めて感じる事が出来た。人と人との強い絆があれば、どんな公演だって出来る。それが劇団の持っている力なのではないだろうか。奇しくも、この岩手公演は風の東北地域の巡演の初日であった。その後、岩手県一関市、宮城県大崎市、福島市と『ヘレン・ケラー』の旅は続いている。

同窓生通信 4

間嶋 健さん(学部43期生)

【プロフィール】

- ・災害医療センター MSW
- ・筑波大学大学院カウンセリングコース 通学中
- ・今年ようやく結婚
- ・趣味 トライアスロン

卒後、七転八倒のMSW

修行ののち現在は立川市にある国立病院機構災害医療センターにてMSWをしております。この病院は先の東日本大震災では災害時派遣医療チームの編成やコーディネートなどを行うなど、広域災害時の基幹施設となっており、平時は震災などの災害に備え各種訓練やスタッフ育成を行うほか、三次救急病院ということでは政策医療や救命センターにおけるかわりを通じて貴重な勉強をさせてもらっています。

在学中は、ワンダーフォーゲル部に所属をしており山登りはそこそこ、お酒ばかり飲んで、い

つもサークルのボックスに閉じこもっていました。大学に行きながらも半分引きこもりのような学生生活でしたが、社大の深い懐の中ぬくぬくと育てられました。(結構迷惑もかけました) 学業においても不甲斐なかったものから、ゼミの手嶋先生からは「卒業をしたのちに勉強を続けていくこと」を前提に卒論を受理していただいた記憶が脳裡に焼き付いています。そのせいか、現在は他大学ではありますが実証研究手法を学ぶために大学院に通

う。昨年趣味のトライアスロンでは佐渡国際アイアンマレースを完走しました。これが私の少し自慢できることです。最近油断して少し太ってきてしまいました。最近はお酒の飲みすぎには気を付けてつつ多事頑張っていきたいと思っています。今後ともよろしくお願ひします

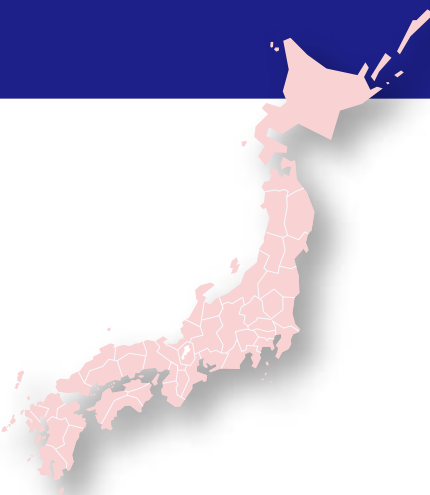


「同窓会」の活性化に向けて ブロックで！職域で！クロス

総務委員会活動報告



総務委員会では、同窓会活動の活性化に向けた各支部への支援のあり方について検討を進めています。昨年の10月には首都圏支部(東京、神奈川、埼玉、千葉)と、11月には地方支部(北海道、長野、京都、熊本)と、支部活動の現状について情報交換を行うとともに今後の同窓会運営について協議を行ったところ、地方ではブロック単位で大会開催してはどうか、首都圏では職域ごとの集会を実施してはどうかといった意見が出されました。引き続き総務委員会で検討を進めた上で、6月の幹事会において一定の方向性を出していきたいと考えていますが、会員の皆様からも、「こういった集会をコーディネートしてほしい」「こういうセミナーを企画してほしい」などのご意見がありましたら、ぜひお寄せいただきたいと思います。



3期クラス会開催

2011年9月26日、学部3期会クラス会を開催しました。(出席者は、OB及び現役の方2名を含め21名でした。)小川政亮先生をお迎えし、「小川先生のお話を聞く会」といたしました。皆さま、お忙しい中、多数ご参集して下さいまして、熱心にお話を聞くことが出来ました。

小川先生のお話は熱の入ったものでしたし、過去の少年院がその舞台でしたが、しかし、その意とするところは「壮大」で、よく現代に通じる、示唆に富んだお話だったと思います。91才というご高齢にもかかわらず、精力的にお話しされるお姿に一同「まいった」のではないのでしょうか。お話しの元になっている連載ものはまだ続くとのことで、ご健康をお祈りしたいと思います。(連載されている本は、「福祉のひろば」(かもがわ出版)誌で、今年の4月号から連載されています。第一部として「父 悔滅」という連載もので、武蔵野学院・浪速少年院・多摩少年院等々の創設に深く関わっておられたお父様のお仕事などを詳しく述べておられます。

その後、皆さんから、震災・原発事故等に関する報告などがありま



して、複数の方々からの熱心な報告がありました。時間が少なかったのは残念でした。終わってのち、懇親会も行い、文京キャンパス担当の藤沢さんもお出席され、20名の賑やかな会となりました。

小川先生のお話を聞く会の参加状況

クラス会メンバー19名、その他メンバー2名(OB及び現役の方)の計21名でした。

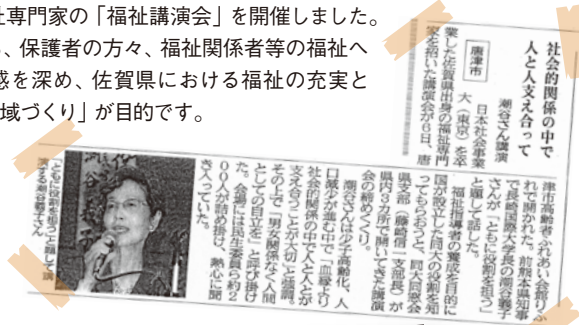
野村 昭彦

佐賀県支部

日本社会事業大学 IN さが

日本社会事業大学「学生児童劇団 ピッポ」を招いて、佐賀の子どもたちに笑顔と夢を与えるために、県内3カ所で開催を行うとともに、県内出身で本学卒業の知名な福祉専門家の「福祉講演会」を開催しました。

子どもたち、保護者の方々、福祉関係者等の福祉への理解と共感を深め、佐賀県における福祉の充実と「心の通う地域づくり」が目的です。



歌、踊り 冒険の旅楽しむ

松梅児童館 劇団「ピッポ」公演



佐賀市 日本社会事業大学「学生児童劇団」の公演は、佐賀の子どもたちに笑顔と夢を与えるために、県内3カ所で開催を行うとともに、県内出身で本学卒業の知名な福祉専門家の「福祉講演会」を開催しました。子どもたち、保護者の方々、福祉関係者等の福祉への理解と共感を深め、佐賀県における福祉の充実と「心の通う地域づくり」が目的です。



学部21期生同窓会
原宿 東郷記念館 (2011.11.5)

北海道支部



■ 北海道支部夏季セミナーの様子

福島県支部

本年度支部総会につきましては研修会とともに県中の方で開催する予定でしたが、諸般の事情により、内容を会員相互の励ましの会に変更し11月26日（土）、磐梯熱海温泉 金蘭荘 花山にて開催しました。3月11日以来の様々な体験や思いを語り合える場となりました。

なお、同窓会本部より見舞金を戴いた事をご報告いたします。

福島県支部長 神戸信行

富山県支部

2月4日（土）、富山福祉短期大学で母校／佐藤久夫先生をお招きし、「障害者総合福祉法“骨格提言と法案のゆくえ”」と題して、講演会を開催しました。



愛媛県支部 ■ ミニ同窓会

2011年11月7日、同期生の佐藤与志夫・愛子夫妻が愛媛を訪ねてくれ、ミニ同窓会を持ちました。彼らも私達も同期生同士で結婚しています。しかし、佐藤夫婦も私達も榛名の恋ではありません。会ったのは何十年ぶり、全員が62-3歳になっています。皆、持病は持っているが何とか生き延びています。当日は夜が更けるのも忘れて思ひ出話に花が咲きました。男性同士は、故杉森先生宅でお世話になり学生時代を過ごしたので、その話が中心。女性同士はお互い東京・神奈川出身で、秋田や愛媛という地方で住むようになってからの苦労話が話題の中心だったようです。

佐藤さんは秋田の同窓会支部長、私は愛媛の同窓会支部長。佐藤さんは同窓会活動にも熱心なようで、実に同窓生の情報に詳しいのですが、私は愛媛で何年も同窓会を開いていないほどで情報にもうとい。佐藤さんに頭が下がり、とても恥ずかしい思いをしました。しかし、私もこの懇親のように時々ではありますが全国の日社大卒の人達と懇親を深めています。滝澤先輩もそうだし、大橋元学長とも懇親できたこともありました。全国に広がる日社大生。同じ県に住む日社大卒業生と交流していくのもとても大切だけれど、全国の卒業生と交流することも大切。これからも同窓生としてたくさんの人と交流を深めていきたい、そんなことを考えさせられた秋の温かい一夜でありました。

愛媛県支部長 徳永佳勝

長崎県支部

平成23年度総会及び同窓会

11月26日（土）諫早市ホテルセンリュウで開催されました。

長崎県支部長 平光八郎



■ 総会及び同窓会にて

広島県支部

広島県同窓会を平成24年2月11日（祝）に広島市の旅館「相生」で行いました。

参加者は7名と少人数でしたが、樽本会長が昨年に続いて被爆者として被爆の実相と共に福島での東北震災による原発の放射能漏れ事故にもふれて「放射線について」詳しく説明されました。参加者の被爆した親族についても語られました。

3.11東北震災も話題にしました。

八木裕子（広島国際大学講師）さんが東北震災によって介護等のサービス提供が困難になった福島県に複数回ボランティアに行かれました。その様子がテレビ・新聞でも紹介されました。震災でボランティア活動をしている写真を中心にしたレポートを提出していただきました。

*今回は参加者が少なかったけど年に1度は集まりたい。

*来年は、日本三景の宮島で開催したい。と話ができました。



◎東北震災のボランティア活動のレポートが提出されたせいか若き日のセツルメント活動などの地域活動などが語られ盛り上った会になりました。

*岩国市出身で広島に就職を希望している4年の女学生の話も出されました。

総会・懇親会を通じて社大の「絆」を感じました。

広島県支部会長 樽本 勲

ワンゲル創立41周年 報告

菊池 浩史(学部34期生)



追伸

ワンゲルOBで会報が送られてきていないという方がいらっしゃいましたら下記までご連絡ください。OB会名簿に登録させていただきます。

e-mail: k0226@mbd.ocn.ne.jp

二〇一二年六月二五日(土曜)、日本社会事業大学ワンダーフォーゲル部創立四十一周年記念パーティーが新宿にて開催されました。

ワンゲルは一九七〇年七月二十日に創部されたと伝えられており、二〇〇〇年には創立三十周年パーティーを開催。これをきっかけに翌年発足したOB会は、現在に至るまで会報の発行を中心に活動を続けています。

創立メンバーから若手までが一堂に集う創立記念パーティーは五年前と

に企画されていますが、事務局の交代などの理由で四十二周年といういささかキリの悪い数字での開催となりました。

今回の参加者は四三名。ワンゲル創立者である山崎会長のご挨拶から始まり、乾杯の後はOB会の会計報告。ここで会費の一部を社大の義援金窓口に寄付することが承認されました。

三時間におよんだパーティーでは、歓談の合間にマイクを使って会員から各種トーク。大先輩からの昔話と近況報告に合わ

せ現役からの今のワンゲルの活動報告。また大先輩たちからのワンゲル旗贈呈の話が出たかと思えば、東日本大震災へのボランティア活動への呼びかけや、はては就農した会員からの栽培している野菜の宣伝まで、その内容は多岐にわたりました。なにせ、六十九年度生から十一年度生まで参加ですから、知らない人が見たらなんの集まりかわからなかったはず。それでもお酒が進むにつれ、世代の垣根を越え話が弾みだすのはワンゲルという、共通の空

間を過ごした者どうしの集まりならではの。

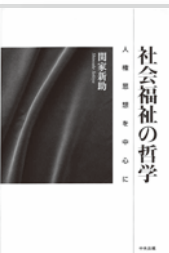
活動場所が人里離れた山奥のためその内容が他の学生の目に触れることがなく、「学内でカレー作ったり酒飲んだりしている集団」としか思われていなかったという話を聞いたことがありますが、そんなサークルにいたからこそワンゲル同士の絆はいっそう深まるのでした。

今回は四十五周年になるのか四十六年になるのか、そのあたりは酒の勢いで確認はされないまま解散となりました。

社会福祉の哲学 一人権思想を中心に

著者：関家 新助
発行：中央法規出版株式会社

このたび、『西洋哲学思想と福祉』の続編ともいうべき『社会福祉の哲学 一人権思想を中心に』を出すことになりました。この著書は、日々きびしい福祉現場に働く人々にとって、その拠所となる哲学を人権思想を中心に充分とはいえませんが、最低これだけは理解していただきたいという強い思いで執筆しました。ぜひ、ご一読下さい。



平成23年12月9日

著者紹介 関家新助(せきや しんすけ)

1936年生まれ、高知県出身
1964年、学習院大学大学院哲学専攻修了
日本社会事業大学教授・日本社会事業学校長
長崎国際大学教授・人間社会学部長・副学長を歴任
現在、日本社会事業大学名誉教授／長崎国際大学名誉教授

子ども達の叫び 福祉への一歩

著者：齋藤 美佐子
発行：株式会社 日本文学館

私は今、働きながら福祉を学ぶ熱心な学生に教え、共に学んでいます。

60余年前、あの山で叫び響いていた子どもの声が、今も耳に残って、私を揺り動かします。

この本が子ども達のため、みなさまのお役に立てたら幸いです。

「あとがき」より



著者紹介 齋藤美佐子(さいとう みさこ)

1929年長野県松代町生まれ。日本社会事業大学研究科5期生
○職歴：養護施設・教護院・普通教育・特殊教育諸学校
○受賞：NHK文化事業団より精神薄弱福祉賞・音楽鑑賞教育振興会より最優秀論文賞・最優秀随想賞、日本社会事業大学より社会福祉学会賞・全日本特殊教育研究連盟より最優秀論文賞

同 窓 会 通 信

同窓生の皆様、お元気でしょうか。今回もホットな
母校・同窓会の出来事をお伝えしていきます。

日本社会事業大学
Japan College of Social Work



● ● 告 示 ● ●

平成24年度 総会開催日が決定しました

2012(平成24)年度は、「総会」開催年です。総会と幹事会(同窓会役員会)開催日といたしました。学内学会が開催されており、こちらのプログラムにも多数参加されますよう、ご案内いたします。

同窓会幹事会 平成24年6月23日(土) 10時30分～12時30分
同窓会総会 12時30分～13時30分
会長報告他 大橋謙策会長

▼▼▼ 総会スケジュール ▼▼▼

10:00	10:30	10:45	11:45	12:45	13:30	14:30	14:40	15:00	16:00	16:45	17:00	18:30
受付 (講堂)	開会式	新任教員 紹介	教職員 研究報告	休憩	講演	休憩	木田賞 贈呈式 学生研究 奨励賞の 贈呈式	木田賞 記念講演 (1名30分)	サークル セッション	移動 時間	懇親会	
				同窓会幹事会 10:30	同窓会総会 13:30							

ご注意
ください

終身会費について

満60歳以上の会員の方は、終身会費として5万円を納入することができることとなりました。
(※満60歳以上の会員は、通常の年会費と終身会費を選択することができる)

5万円ではなく、5,000円を誤納される方が多数あります。ご注意ください、ひきつづきご協力のほどお願い申し上げます。

「高橋重宏先生を偲ぶ会」のご案内

高橋重宏先生(日本社会事業大学学長)におかれましては、去る平成23年12月8日、享年64歳でご逝去されました。

先生は、わが国の児童福祉分野の第一人者として多大な功績をあげられ、ソーシャルワーカー育成にご尽力されました。社会福祉研究・教育においてご活躍された先生とお別れするにあたり、先生にお世話になった団体関係者、弟子達を中心となり、高橋重宏先生を偲ぶ会を開催する運びとなりました。

平成24年3月

高橋重宏先生を偲ぶ会 実行委員長 ◆

日本社会事業大学教授 佐藤久夫

日時 平成24年5月13日(日)

「第一部」 偲ぶ会 午後1時～

「第二部」 偲ぶ宴 午後3時～

場所「第一部」瀬尾ホール

◆ 「第二部」東海大学校友会館

連絡先「高橋重宏先生を偲ぶ会」実行委員会事務局
日本社会事業大学内 TEL.042-496-3000

「五味基金」の審査委員会が 開催されました

平成23年10月3日(月)14時00分～15時00分 飯田橋セントラルプラザ4階 テクノイド協会にて開催されました。

〈決まった事項〉

○大震災「見舞金」について

岩手、宮城、福島、茨城県各支部へ20万円を支給することが決定しました。

また、被災した母校学生についても、9名にそれぞれ10万円を支給することが決まりました。

○同窓会支部への支援

熊本、青森、佐賀県各支部からの申請内容を検討した結果、熊本県支部11万円、青森県支部60万円、佐賀県支部20万円を支援していくことが決まりました。

大橋謙策同窓会会長、板山賢治顧問、石橋俊一顧問、伊藤博胤顧問、林千代審査委員、数間文夫、畑戸健太郎(事務局)

ルポルタージュ

福祉は人の幸福を追求するもの

代田 香苗(学部三六期)

開発途上国などで、保健衛生支援に関わられているそうですねが、そもそもなぜこの道に？

なぜでしょう？一言で答えられることではないのですが、やはり社大での経験や出会いが影響しているのは確かです。高校卒業後進学した某女子短大を退学して、晴れて社大に入ったからこそ、開発途上国と関わりお役に立てるようになったのは嬉しいことです。その頃の私はまだ若き二〇歳前半で、児童福祉学科で勉強させてもらっていた学生。普通に就職していれば今は福祉業界でバリバリに働いていたと思います。でも違った。自分が日本で福祉に携わらなくても優秀な社大生が担ってくれる、そして、無謀にも、福祉の向上が必要な国に行つて、お手伝いできると勝手に思ってしまったのです。

も足を踏み入れつつありました。方で、障害児者の余暇活動を支援する団体でも働き、知的障害者の自立や地域生活に関心が高まっている時、マレーシアで障害児者のNGOを立ち上げたある人が事業を手伝ってほしいと誘ってくれたのでした。純粋に海外で障害者への支援ができると考えていた私は、「いいですね行きます！」と即答したのです。だったら、何かチャレンジを作ろうと、卒業後、某大学院の社会福祉学修士にて障害者の地域支援と社会開発に関する研究と現場経験を積み、一九九八年にマレーシアのNGOへ。六歳以下の障害児を集めた早期療育から始まり、十六歳以上の障害者を対象にした作業所や自立生活訓練、そして、私の研究テーマだったカンボン(マレー語で村)に住む障害児のための移動おもちゃ図書館サービスを提供する現地スタッフと共に展開。おもちゃを積んだ車で障害児の家庭やデイケアセンターを訪問して、在宅や支援の限られ

た子供たちにおもちゃで遊んでもらい、楽しむ子供たちを見て親も嬉しく子供の可能性や生きがいを考える場ともなりました。こうして、マレーシアで第二号の移動おもちゃ図書館を発進させ、有意義に三年ちよとサービスパロバイダーとして第線で働く間に、持続性と日本人としての役割への自問も強くなつていったのです。そして、社会福祉という切り口から始まった私の開発途上国との関わりは、イギリスの大学院でのNGOマネージメントを機に、途上国における公衆衛生や保健分野での組織運営と事業管理という後方支援に移っていききました。

事業展開にどんな思いがありますか？

保健に特化したNGOのタイ事務所代表として、HIV/AIDS事業管理のために赴任した私は、タ



プロフィール しろた かなえ 1972年東京都生まれ、埼玉県立春日部女子高校卒、日本社会事業大学卒業後、日本女子大大学院へ進学、マレーシアNGO「Asia Community Service」勤務、London School of Economics and Political Scienceへ進学、国際保健協力市民の会タイ事務所勤務、日本赤十字社海外派遣要員としてインドネシア及び東ティモール勤務、現在、日本赤十字社本社国際部国際救援課でハイチ事業を担当。

イで最も貧困とされる東北部で、HIVという深刻な社会問題と向き合うことになりました。貧困ゆえの出稼ぎ労働や性産業。パートナーからパートナーへの感染が母子感染へ。HIV陽性者の差別と、HIV検査や治療へのアクセスや社会参加をも妨げる偏見。一九九〇年代の次々とエイズを発症して亡くなる事象こそ見なくなりましたが、私は代表として、未だに存在する様々な課題の解決を目標に、地域でのHIV啓発とHIV陽性者自活動支援を柱とする事業が円滑に進むよう、人事、財務、渉外、調整等の組織運営と事業管理に徹し、英語が通じない時はタイ語で説明や話し合いを行い、事業を通してHIVによる不利な環境を見直していこうと、現地スタッフや村人、HIV陽性者を盛り上げてきました。その団結力が

医療を変え、地域でのHIV感染予防と差別軽減活動をリードし、これまで社会の重荷とされてきた陽性者は、HIVと共に元気な姿で適切な医療を受けながら予防啓発へ参画し、周りを驚かせるほどの成長。当事者と支援者による社会変革を目の当たりにし、私は改めて人々が能力や知識を備えるエンパワーメントの重要性を認識、四年のタイ駐在が終わりました。その後二年半インドネシアでのHIV/AIDS事業、東ティモールでの救急法事業と続きますが、特に後者では紛争、虐殺という辛い経験から、救急法を使って人々を救いたいという意欲に、明るい人々の未来が見えてどんなに勇気づけられたことが。

学生時代の私、思い出

その頃はまだ社会福祉って地味というイメージが私の周りであつたので、なるべく明るく楽しく大学生活を送るように努めました。服装も社大カラーよりもちゃんと派手でしたが、四年間を通して結構真面目に勉強や実習に励んだと思います。大学年の時、社会福祉原論で初めてAを取りとてもうれしかったこと、特養や児相



当時のレクリエーションサークル「You」のメンバー(御岳山登山)

での実習、いろんなボランティア活動。Youというサークルでは熱心ないろんな遊びに行きました。ある授業で街頭募金の方法を聞かれた時に、ビキニを着て募金を集めると答え、先生に驚かれたこともありました。ちょっと変な学生だったようです。

今後の抱負をお願いします

二〇二二年初めに日本に戻り、今は二〇二〇年に大地震に見舞われたハイチの復興支援事業デスクとして働いています。福祉は人の幸福を追求するもの。与えられる幸せではなく、対象者が自分たちの力で手に入れるようにお手伝いすることが私の仕事。国や事業を問わず、福祉、ソーシャルワークに繋がっている。できれば、また現場に戻つて一緒にそのプロセスを踏んでいきたい。